平成２７年１１月２日



一般社団法人Bridge for Fukushima

代表理事　伴場　賢一

事務所：〒960-8061　福島市五月町2-22

連絡先：024-503-9069　メール：info@bridgeforfukushima.org

イベント「BFF高校生メンバー　プロジェクト報告会」のお知らせ

平素より大変お世話になっております。Bridge for Fukushimaでは、東日本大震災現地NPO応援基金 JT NPO応援プロジェクト第6回助成事業「次世代の若者による実践的地域社会課題解決プログラム」として、高校生が社会課題解決プロジェクトを立ち上げ、社会課題解決に取り組む際のサポートをしております。この度、Bridge for Fukushima高校生メンバー約20名が、自分の取り組むプロジェクトについての報告会を実施いたします。福島県の高校生の日頃の活動や、弊団体の目指す地域像について理解いただける機会となるかと存じますため、是非お越しくださいませ。

記

* + 名称　BFF高校生メンバー　プロジェクト報告会
    - 本事業は東日本大震災現地NPO応援基金 JT NPO応援プロジェクト第6回助成事業として実施されています。
  + 日時　2015年12月6日（日曜）午後2時～4時半
  + 場所　福島市市民活動サポートセンター会議室（福島市大町4-15 チェンバおおまち3階）
  + 内容
  + Bridge for Fukushima高校生メンバー約20名による、自分の取組むプロジェクトについての報告
    - 高校生は、前日から弊団体にて実施する「BFF高校生メンバー　ロジックモデル合宿」に参加し、伊藤健先生（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任助教）による指導を受けたのちにこの場に臨みます。同合宿は、以下の２つのプロセスを通じ、自分の社会課題解決プロジェクトをより良いものにすることを目的に行われます。
      * ①「自分の社会課題解決プロジェクトが、誰の・どんな課題を解決できるのか？」を、ロジックモデルに沿って検討し、プロジェクト内容と目指すゴールを見つめなおす。
        + ※ロジックモデル：ある施策がその目的を達成するまでの論理的な因果関係を明示したもの。投入される資源（input）生まれる結果（output）最終的な社会的成果（outcome）の論理関係を示す。ロジックモデルを作成することで、施策のもたらす効果の予測、施策の問題点の事前発見や、施策の事後評価を行いやすくなる。
      * ②「どうして自分がそれをやりたいのか、やるべきなのか」（ハラオチ感）を確認する。
  + 観覧お申込み方法
    - 当日飛び入りでのご観覧も大歓迎でございますが、可能でしたら①お名前②ご所属③ご連絡先電話番号④ご連絡先メールアドレス　を、以下の連絡先宛てにご連絡いただきたく存じます。
  + 問い合わせ先・お申込み先
    - メールの方　info@bridgeforfukushima.org
    - FAXの方　024-503-9069 　Bridge for Fukushima加藤　宛

以上